

平成30年度 第1回四万十町社会教育委員会 議事録

1. 日 時 平成30年5月21日 午前10時～12時
2. 場 所 本庁東庁舎2階 多目的小ホール
3. 出席者
社会教育委員 山本 美知代、山本 哲資、谷口 和史、大崎 博司
長谷部 恵美、中平 勝人、中脇 由美、田邊 法人、金子 仁
教育委員会 教育長 川上 哲男
教育次長 熊谷 敏郎
生涯学習課 課 長 林 瑞穂
副課長 味元 伸二郎、佐竹 あゆみ
主 事 井上 稚美

4. 日 程
 - (1) 開 会
 - (2) 教育長挨拶
 - (3) 委員及び職員の紹介
 - (4) 議題
 - 1 委嘱状の交付
 - 2 委員長、副委員長の選任
 - 3 平成30年度四万十町教育行政方針について
 - 4 平成29年度実績及び平成30年度社会教育事業計画について
 - 5 その他
 - (6) 閉 会

進行役：議長が決定するまで、副課長 味元 伸二郎

味元副課長 議題(2)委員長、副委員長の選出について、立候補・推薦はないか。
中脇委員 委員長に谷口和史氏、副委員長に金子仁氏を推薦する。
味元副課長 中脇委員による推薦に異議はないか。
全委員 異議なし。
味元副課長 委員長を谷口和史氏、副委員長を金子仁氏に決定する。
議長を谷口委員長に願う。

(議長交代)

議長 議題(3)平成30年度四万十町教育行政方針について、説明を求める。
林課長 (資料1～4ページを説明)
議長 説明のあった四万十町教育行政方針について、質疑はないか。
前委員 質疑なし。
議長 次の議題に入る前に、新たに4名の委員が加わったこの機会に「社会教育委員とは何か」を事務局にいま一度説明を求める。
林課長 資料の準備があるため、少し時間をいただき後ほど説明する。
議長 議題(4)平成29年度実績及び、平成30年度社会教育事業計画について、職員に説明を求める。おおむね例年どおりのところは省き、新たな事業や変更点のみ説明を。
味元副課長 副課長のスケジュールの都合により、保育関係から先に説明する。
佐竹副課長 (22ページから29ページの説明)
議長 職員から説明のあった内容について質疑はないか。
山本委員 P24 多子世帯保育料等軽減事業について、30年度予算の記載がないが、今年度も実施される事業なのか？
佐竹副課長 保育料の収納時に軽減された金額をもらうという事業のため、予算額としては計上していないが、継続しておこなう。
林課長 お金を出すのではなく、収入の予算が減ることである。
議長 ほかに質問はないか。
山本委員 P29 放課後子ども教室について、今年度から北ノ川小学校と米奥小学校が加わるということだが、これで町内全校での実施になったということか。
林課長 興津小学校では実施していないが、興津には児童館がある。放課後子ども教室というかたちでは実施していないが、子ども教室の機能が児童館により補完されている。
議長 ほかに質問はないか。
P26 保育料の収納(滞納)対策について、金額は記載があるが人数が入っていない。人数の記載はできないのか。大雑把にどのくらいか。
林課長 担当に確認し、後ほど報告する。申出による児童手当から保育料の徴収をすることにより、滞納は少なくなり、収納率が上がっている。
議長 ほかに質問はないか。
中脇委員 個人的には四万十町で子育てをしてきて、保育行政ではいろんな面でお世話になり、とてもよかったと実感している。数年前に保育行政が町民課から生涯学習課に移行したのは、1人の子どもを継続して見ていけるからだと思っている。教育委員会に移行した機

会に、利点や課題があったと思うが、それについて教えてほしい。

林課長 1番大きく変わったのは、先ほど中協委員が言った通り、子どもを一貫して見られるようになったということ。それと、町民課では児童福祉の「福祉」に軸足を置いていたが、教育委員会では「教育」という立場から見ていける。教育委員が学校訪問をするように、保育所訪問をはじめた。それにより、教育という視点で保育所も見られるという土台ができた。これが町民課から教育委員会へ移行したことの1番の利点かと思う。ただ、福祉についても維持していくために、子ども子育てのワンストップサービスに取り組んでいるが、難しいというのが現状である。

中協委員 四万十町内に待機児童はいないか。

佐竹副課長 4月時点で待機児童はいない。

林課長 4月時点ではないが、保育士不足が深刻であり、受け入れる施設はあっても保育士が不足していて人数基準が満たせず入所できないということがある。

山本委員 保育行政が教育機関へ移行したというのは、国や県でもそういった動きがあるのか。

林課長 県では教育委員会のなかの幼保支援課がもっている。県内のほかの市町村でもほとんど教育委員会がもっているというのが現状だと思う。

佐竹副課長 教育委員会が保育行政を担うことは、保育所・認定こども園・小学校の連携体制強化という面で、連携がとりやすく、今後の支援にもつなげられると実感している。

伊藤 先ほどの滞納者数について説明する。出納閉鎖が5月末であるため29年度はまだ出せないが、28年度は2人。27年度以前の滞納者が5名。資料にある金額は7名の合計である。27年度以前の滞納者についても少しづつ納付を促し、28年度以降は新規の滞納者を極力出さないように力を入れる。

議長 ほかに質問はないか。

金子委員 子育て力強化事業について、学校間で取組みに差があるとのことだが、教育委員会として働きかけはどこまでしているのか。

林課長 校長会を通じての周知をしている。

大崎委員 ただし、この「子育て力強化事業」自体は活用していない学校でも、同じような目的をもってそれぞれの学校で取組みを行っている。

議長 ほかに質問はないか。

なし

議長 準備が整ったようなので、「社会教育委員とは何か」改めて説明を求める。

林課長 (資料の説明)

議長 高知県の中でも、高岡地区は社会教育委員の活動が活発である。会議だけではなく、日ごろ各持ち場での取組みに力を入れ、こういった会議で共有することが大切だと自分は考える。

議長 議題(4)について、資料5～21ページの説明を。

味元副課長 (資料5～21ページの説明)

議長 職員から説明のあった内容について質疑はないか。

大崎委員 文化的施設検討委員会では、具体的にどのような意見が出ているのか。

味元副課長 町長の掲げた公約にもあり、つくる方向で進んでいる。図書館アワードで最優秀賞をとっ

た瀬戸内市民図書館へも視察に行った。県内にあるような静かなイメージの施設ではなく、中高生がたくさんいて明るくにぎやかな施設だった。現段階では大雑把であるが、「子ども連れでも気兼ねすることなく行ける施設にしてほしい」などの意見があった。今後取りまとめをして構想にしていく。

大崎委員 基本構想ができたなら、町民にも知らせるのか。

味元副課長 知らせる。

林課長 検討委員会の会議録や資料も公開されている。文化的施設をつくるにあたっては、職員配置を問題視する意見がある。いまは専門性をもった正職員がおらず、臨時・嘱託職員が中心となっている。いろんなことを含めたさらなる検討が今後必要になる。しっかりした土台とコンセプトをもち、そこに肉付けしていくかたちで検討を進めていきたい。

山本(美)委員 図書館・美術館・郷土資料館が1つになった施設なのか。

味元副課長 1つ1つではなく、一体となった施設である。

林課長 郷土資料館については、民具の取り扱いの問題があり、窪川・大正・十和それぞれで保管しているものを1つに集約して管理することが難しいため、そこも検討していく必要がある。

中平委員 十和の民具を旧十和村役場に保管していたが、雨漏りがひどかった。現在はどうなっているのか。

味元副課長 現在は大道の小学校に移し、そこで保管をしている。

議長 資料5～21ページで、そのほか例年と違うことはあるか。

林課長 P16・17について、国の重要文化財である旧竹内家住宅と国の登録文化財である旧門脇家住宅の茅葺き屋根が非常に傷んでいるということで、竹内家については今年度国の補助事業を使って改修をする。当初は全面改修で計画していたが、補助事業の関係で4面あるなかの2面を改修し、残った2面については『さしがや』で補修をする。門脇家については、補助事業ではなくふるさと支援基金（ふるさと納税）を使って2面葺き替え、2面をさしがやで補修する。

国の登録文化財や文化的景観の重要構成要素である大正橋については、落ちる危険があることから28年の12月から全面通行止めになっている。議会の一般質問等でも指摘を受けたが、国の予算をとることが難しい。町道として社会資本整備事業でなんとか改修できないかと協議を進めているところである。

(休憩10分間)

議長 会議を再開する。それぞれ質問や意見等はないか。

中平委員 町指定の文化財について聞きたい。大井川にある中平屋敷について、復元して活用することはできないか。

林課長 なんとかしなければならぬが全面的に改修することは難しいため、今後の課題であると認識している。十和の振興局とも協議をしていきたいと思っている。

山本委員 P5文化講座について、初心者のための将棋教室は窪川地区でやるのか。

- 味元副課長 まだ決まっていないが、基本的には窪川でやるというイメージをもっている。様子を見ながら大正・十和で参加してくれる人が多いということであれば、これから検討していく。
- 山本委員 子どもたちにニーズがあるか分からないが、そういった機会があればいいと思った。
- 金子委員 P6 シルバー大学と P8 わんぱく学校について、事業内容に大きく変わったところは見受けられないが、予算が前年度より大幅に増額している。これはなぜか。
- 味元副課長 資料の前年度予算額は補正後の予算額のため、前年度の当初予算額も今年度と同じくらいはあったということもある。ただ、シルバー大学もわんぱく学校も旅行業法の関係で、町が個人からお金を徴収して旅行会社に支払うということができなくなった。昨年度途中から個人がバス会社に支払いをし、バスの料金については町が出すことかたちになった。そのため昨年度の歳出予算は下がった。今年度の当初予算は前年度並みの金額で計上しているが、実績では下がる。
- 林課長 四万十町としては役場を通してやるよりも旅行会社を通してやるほうが現金の取り扱いの危険性も減るので、とくにシルバー大学についてはこのやり方が良いのかと考えている。
- 議長 ほかに何かないか。
- 長谷部委員 P5 文化講座は夏季大学に代わるものだが、具体的な内容は決まっているのか。
- 味元副課長 30 年度事業予定に記載してあることを計画しているが、昨年からはじまった事業であるためニーズ調査まではできていない。意見や要望等があれば予算に反映して来年度以降実施するようにしていく。
- 議長 ほかに聞いておきたいことはないか。
- 山本委員 ゆかたの着付け教室等は 29 年度の事業なのか。
- 味元副課長 そうである。資料に赤字で記載されているものが 30 年度の事業予定で、「初心者のための将棋教室」や「古文書を知る」等、講師を招いての講座を高知城歴史博物館などと相談している。
- 林課長 夏季大学に代わるものとして、四万十会館を指定管理にだしており、四万十会館の自主事業を積極的に支援するというかたちでも、夏季大学に代わるものを補完できるかと考えている。昨年度の途中からロビーコンサートなど新しい取り組みもやってもらっている。今年度については「昭和のうた」というのを自主事業をやってもらい、今までになく好評だった。教育委員会だけではなく、指定管理者である四万十会館にも主体的に動いてもらい、それを教育委員会が支援するというスタイルも検討しているところである。
- 議長 ほかにないか。
- 金子委員 P18 郷土資料館の管理・運営について、入館者数を見ると 27 年度だけ大きく増えて 28 年度にはまた減少しているが、資料の下には「入館料無料化等の効果で入場者数が増加しているが〜…」とある。これはどういう状況か、理由など教えていただきたい。
- 林課長 「入場者数が増加しているが〜…」という表現が良くないが、有料の時と比較すれば増加しているが現在も右肩上がりが増加しているというわけではない。
- 金子委員 27 年度だけ大きく増加した理由は。
- 林課長 ネイチャーセンターができたのがその頃だったと思う。社会科見学等の団体が多いことで

入館者数が増えたか、あとは四万十街道ひなまつりの会場にもなっているので、そういったところが入館者数の増加の要素になったかもしれない。

金子委員 30年度の事業内容に「入館者数の増加を目指し〜…」と書くならば、27年度に増加した事情をしっかりと把握したほうがよいのでは。

林課長 来年度から現状とマッチした記載にするようにする。

議長 ほかにないか。

田邊委員 P5文化講座について、他県では著者講演などをやっている。本を高校生が読み、読んだうえで著者をお招きし、講演なり質問なりをするのが著者講演である。将来的にそんなかたちで学校の先生とタイアップし、地域の方も呼んで文化的なことを論じる機会ができればいいかと考えている。

味元副課長 ぜひとも参考にさせていただく。

中協委員 P12国際交流促進事業について、CIRが十分に活用できているのか。また、高幡中学生海外派遣事業のニーズがあるならば、外国に行かなくてもできるような取り組み（以前十和のALTがやっていた英語しか話せないキャンプなど）をCIRが中心となって考えてもらえればと思う。

林課長 今年度はCIRの入れ替えがあるのですぐには難しいが、検討する。

（資料の訂正）

高幡中学生海外派遣事業 ×21日間→○14日間

議長 議題（5）その他 ないか。

味元副課長 今年度、社会教育中四国大会が11月15・16日に高知で開催される。非常に有意義な講演会なので、ぜひ参加していただきたい。また、文化的施設検討委員会で新しくできるオーテピアの視察を考えているが、11月の中四国大会で話が出るかと思うので、社会教育委員の方にも視察にぜひ参加していただきたい。

議長 以上で、会議を終了する。

（閉会）